

令和6年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

1. 大阪府内で初教育系専門学科である教育文理学科(単科)を有する高校として、高い志を持ち、次世代の大阪を創生する人材を育成する。

2. 主体的に学ぶ力、コミュニケーション力、課題解決力、情報活用能力、未来を切り拓く想像力を育成する。

3. 幼稚園や小学校、中学校などの教育機関における現場実習や地域・企業と連携した体験実践学習をおこなうとともに、対話や協働・体験を通して教育や英語、自然科学や情報といったそれぞれの分野で将来リーダーシップを育成・発揮できる探究活動の充実に取り組む。

2 中期的目標

1. 「心身の健康と安全を自他ともに保持増進する力」の育成

(1)心身の健康と安全確保について生徒が自分自身だけでなく、他者に対しても説明したり働きかけたりすることができるようになるための教育の推進
※生徒向け学校教育自己診断における「学校へ行くのが楽しい。」の肯定的回答率 80％以上を維持。(R4:85% R5:86%)

(2)中退防止・不登校・進路選択の不安など高校生活における課題に対する取組の充実
※生徒向け学校教育自己診断における「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある。」の肯定的回答率 80％以上を維持。(R4:81% R5:90％)
2. 「視野を広げ課題を発見し科学的にアプローチすることで解決につなげる力」の育成

(1)主体的・対話的な授業づくりを学校全体で推進し、学校設定科目「教育探究」の充実とともに、各教科科目において探究的な学びを生み出す授業を工夫することで、科学的手法の習得と学ぶ意欲を高める学習へと発展させる。
ア 校内研修や相互授業見学週間、研究授業等の充実を通して、授業改善の取り組みを推し進める。
※生徒向け学校教育自己診断における「教え方に工夫をしている先生が多い。」の肯定的回答率 80％以上を維持。(R4:86% R5:83%)
※生徒向け学校教育自己診断における「授業を受けて、学習意欲が高まった」の肯定的回答率 80％以上を維持。(R5:83％)
※生徒向け学校教育自己診断における「授業では、実験・観察・実習をしたり、学校外へ見学に行く機会がよくある。」の肯定的回答率を 70％以上にする。
(R4:64% R5:69%)

(2)高大連携行事を充実させることでキャリア教育の充実を図り、将来の目標に向かって主体的かつ積極的に行動する力を育成する。
※生徒向け学校教育自己診断における「高大連携事業や外部との交流が、自分の知識を広げ、進路選択に役立っていると感じる。」の肯定的回答率 80％以上を維持。
(R5: 79%)

(3)学校図書館をはじめとする情報資産を活用して、視野を広げ自らの生き方を考えさせるキャリア教育を推進することで学習意欲の向上を図る。
※生徒向け学校教育自己診断における「将来の進路や生き方について考える機会がある。」の肯定的回答率 80％以上維持。(R5:88％)

(4)地域に開かれた学校づくりの推進並びに北区を中心とした近隣校との異校種間連携を充実させる。

(5)姉妹校との国際交流を充実させ、国際的な視野を養い、他の国や文化を尊重し、高い志を持ち未来を切り拓く主体性のある人物の育成に努める。
ア 留学生との交流の機会を深め、多様な文化を享受する取り組みの実施。
イ 外部講師等を招聘し、多文化理解の充実をはかる。

(6)進路指導の充実
ア 講習や補習、勉強合宿を含めた進路行事を充実させ、生徒が積極的に進路開拓に向けて努力し、文系・理系それぞれの分野で将来リーダーシップを発揮できるよう、新たな経験に積極的に挑戦し、未来を切り拓くための創造力を養う。
※国公立大学及び難関私立大学(関関同立・産近甲龍・外国語大学)の現役延べ合格者数を 120 名となることをめざす。
3. 「高いコミュニケーション能力、情報活用能力を身につけることで、人権を尊重し相互理解に努める力」の育成

(1)コミュニケーション能力、情報活用能力、課題解決能力、未来を切り拓く創造力並びに情報リテラシーを教科横断的な視点に基づき育成する。
※生徒向け学校教育自己診断における「教育活動を通じて、コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力が身についた。」の肯定的回答率 90％以上を維持する。
(生徒 R5:93%)

(2)体験活動や地域連携等における活動を通して人や社会とのつながりを考察させることで、他者とよりよく生きるための態度を養う。
※生徒向け学校教育自己診断における「授業や部活動などで、保護者や地域の人々とかかわる機会がある。」の肯定的回答率 80％以上維持。(R5:63%)

(3)学校行事、部活動等を通して、自己の可能性を伸ばし、よりよく社会に参画する態度を養う。
ア 生徒が主体的に学校行事等に関与できるよう生徒会活動を活性化させる。
※ 生徒向け学校教育自己診断における「生徒会活動は、活発である。」の肯定的回答率 80％以上維持。(R4:81％ R5:79％)
イ 人権尊重の学校づくりを進めるため、人権教育及び人権啓発に関する正しい理解を深めるとともに、いじめを無くす取組を支援する。
ウ 校則に関して、生徒が主体的に考えられる場をつくり、生徒自身が考え行動し、自主的に取り組めるよう努める。
※生徒向け学校教育自己診断において「学校生活についての先生の指導は納得できる。」の肯定的回答率を 80％以上にする。(R4:79％ R5:77%)
4. 「チーム桜和」を支える教員力の向上

(1)学校保健委員会、安全衛生委員会を活性化するとともに、「大阪府部活動の在り方に関する方針」・「府立学校における働き方改革に係る取組みについて」等を踏まえた生徒・教職員の健康管理体制の充実

(2)大阪教育大学と教育委員会との連携協力に関する協定書に則り、大阪教育大学と連携して教育文理学科の特色を最大限発揮するための実践研究の推進
ア スクールミッションやスクールポリシー等のビジョンを明確にし、特色ある教育の実現に向けて取り組む。
※教職員向け学校教育自己診断の「校長は自らの教育理念や学校運営についての考え方を明らかにしている。」の肯定的回答率 90％以上維持。(教職員 R4:96% R5:100%)

(3)新型コロナウイルス感染症拡大時等においても、生徒が体系的・計画的に学習をすすめていけるようICTの活用を充実させる環境づくり
※生徒向け学校教育自己診断における「学校は1人1台端末を効果的に活用している。」の肯定的回答率 90％以上維持。(生徒 R4:94%、R5:95%)

(4)教育センターの研修等を活用し、ICT等を活用した校務の効率化により、教職員の事務作業に係る時間軽減及び生徒と向き合う時間の拡充
※ 教職員向け学校教育自己診断における「校内研修組織が確立し、計画的に研修が実施されている。」の肯定的回答率を 80％以上にする。(R5:90％)

(5)学校の特色について、教職員間における共通認識に基づく広報活動の充実を図るとともに、保護者や地域等との連携を推進する。
※ 教職員向け学校教育自己診断における「情報提供の手段として、学校のホームページが活用されている。」の肯定的回答率を 80％以上にする。(R5:100％)

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析[令和年月実施分]	学校運営協議会からの意見
1.「心身の健康と安全を自他ともに保持増進する力」の育成 ※「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある。」 (生徒 R4 81%,R5 90%,R6 95%)	【第1回】（7月3日） ・大阪教育大学との連携はどういう形でなされているのか。 ・学校経営計画など生徒等への周知はどうしているのか。

府立桜和高等学校

※「先生は、日常生活や家庭生活について私たちが困っていることがあれば真剣に対応してくれる」(生徒 R4 87%,R5 86%,R6 80%) ※「子どもに生命を大切にすることや社会ルールを守る態度を養おうとしている。」(保護者 R5 86%,R6 90%) 【分析】 「学校へ行くのが楽しい(楽しみにしている)」が(生徒 84%,保護者 84%)ともに 80%を超えていることから、学校生活への満足度は非常に高いと考える。また、人権について学ぶ機会があるという項目では2年続けて90%を超える高い数値であることから引き続き、この状態を維持していきたい。 安心安全な学校づくりを第一に、教職員間での連携をはじめ生徒との雰囲気作りを次年度も継続していきたい。 2.「視野を広げ課題を発見し科学的にアプローチすることで解決につなげる力」の育成 ※「授業はわかりやすく楽しく、学習意欲が高まった」(生徒 R4 76%, R5 83%,R6 83%) ※「教室・特別教室・運動場などは、授業や生活がしやすいように整備されている」(生徒 R4 90%、R5 90%,R6 85%) 【分析】 授業がわかりやすいと感じる生徒が前年度同様 80%を超え、教員の指導力の向上と積極的な教授方法の導入が見て取れる。また、授業環境が整備されているという評価が高いことも要因であると考え。探究活動の項目においては目的意識を持って取り組んでいると評価している生徒が 93%であり、本校の教育方針が生徒に伝わっているといえる。 また、「進路についての情報を知らせてくれ、きめ細やかな進路指導 (R5 84%,R6 83%,R6 90%)」や「将来の進路や生き方について考える機会がある。」(生徒 R4 92%、R5 88%,R6 89%)において、いずれも高い数値であることから、引き続きこの状態を維持し、生徒の進路実現へと結び付けていきたい。 しかし、保護者における「宿題等の家庭学習の習慣がついている」が 58%(R5 56%)であったことから、家庭学習へとつなげていくアプローチが今後の課題である。 3.「高いコミュニケーション能力、情報活用能力を身につけることで、人権を尊重し相互理解に努める力」の育成 ※「少人数指導や参加体験型の学習を取り入れるなど、指導方法の工夫・改善に努めている」(教員 R5 100%,R6 100%) ※「学校内で他の教員の授業を見学する機会があり、教員の間で、授業方法等について検討する機会を積極的に持っている。(教員 R5 98%,R6 100%) ※「授業で自分の考えをまとめたり、発表する機会がある」(生徒 R4 95%,R5 98%,R6 95%) ※「授業や部活動などで、保護者や地域の人々とかかわる機会がある。」(生徒 R4 62% R 5 63%,R6 74%) ※「生徒会活動は、活発である。」(生徒 R4 81%,R5 79%,R6 87%) 【分析】 指導方法への工夫・改善の意識が教員間で高く、相互授業見学等を通じて、積極的な交流が行われており、そのことが生徒の評価にも表れている。 また、「授業を通じてコミュニケーション能力が身についた」(生徒 R5 93%,R6 94%)の数値が高いことから、本校の育成したい能力に向けて結果が出ており、引き続き本校の掲げる能力育成に向けた授業を実施していく。 授業や部活動などで、保護者や地域と関わる機会の項目が、年々改善されてきており、地域との積極的な交流が少しずつ浸透してきていると言える。 4.「チーム桜和」を支える教員力の向上 ※「校内研修組織が確立し、計画的に研修が実施されている。」(教員 R4 87%,R5 90%,R6 91%) ※「近隣の学校などとの校種間連携の機会を設け、教育活動全般に生かしている。」(教員 R5 95%,R6 98%) ※「情報提供の手段として、学校のホームページが活用されている。」(教員 R4 100%,R5 100%,R6 98%) ※「学校は、生徒が外部や他の学校と交流する機会を設けている。」(保護者 R5 82%,R6 88%) 【分析】 連携大学との交流が昨年度より増加した。大阪成蹊大学を会場としたイベント「探究 EXPO」では、4校の高校・大学との交流を行うことができた。また、「教育ボランティア」等でも小・中学校や教育施設と連携し、保護者等への一定の評価につながったと考える。また、大学教授による出前授業は今年度も 10 件以上を数えたほか、生徒が実際に大学を訪問し、レクチャーを受ける機会を設けた(大阪成蹊大学/体育)。 さらに、住之江支援学校より講師をお招きし、インクルーシブ教育についての講座を実施し、これらの取り組み成果が評価につながっている。 課題としては、「情報提供の手段としてホームページを活用している」が教員 98%に対して、保護者の「ホームページをよく見る」が 62%(R5 61%)であることから、保護者への情報提供に関して、様々なツールを用いて工夫していく必要がある。	・SNS への向き合い方は学校としてどのように取り組んでいるのか。また、AI の活用が広がりつつある一方で悪用されるニュースもよく聞く。生徒への注意喚起をしっかりとこなってほしい。 ・これからの世の中を生きていくために高いコミュニケーション能力が必要である。まさに桜和の教育はその力を育もうとしている。 ・遅刻数が少し多く感じるが、どのようにお考えか。 ・娘に、母校の先輩として高校紹介をしてほしいというオファーが来ている。昔なら中学生の前で話すなんてあまり積極的ではなかった子が、桜和のカリキュラムを通じて、話すことに抵抗がなくなっているようで、子どもの成長をすごく感じる。 ・中学校にて国際交流に魅力を感じている保護者が多いと感じる。桜和で行っている国際交流等についてわかりやすく周知しているものはあるのか。 ・「教育ボランティア」の授業にて、早い段階で伝えてくれたら中学校にて職員会議等で教員に言いやすい。また、生徒も楽しみにしているので、部活動等でのボランティアを通して交流を続けていきたい。 ・教育探究の授業が自分自身から始まり地域社会、国際へと発展しているところがよい。 【第2回】(11 月 25 日) ・アルバイトは学校としてどのようなルール設定をしているのか ・SNS における使い方などの啓発活動を積極的に行っていくことが大切である。学校経営計画等にも盛り込んでみてはどうか。 ・18 歳成人に伴い、高校生の消費者教育などにかんしても学校経営計画等に盛り込んでみてはどうか。積極的に弁護士の派遣等の実施 を検討してほしい。 ・三菱みらい育成財団に選ばれたとのことだが、どういうところが評価されたのか。そういった素晴らしいことはぜひ HP 等で大きく示されたらどうか。 ・桜和高校は扇町総合高校・南高校・西高校を閉校にしてできた学校なので、同窓生としては発展を切望している。教育文理学科の理念に基づいて大阪教育大学との連携を掲げているので、宣伝やスローガンだけでなく、もっと積極的にかかわって盛り上げてもらいたい。それが同窓生としての希望であり、委員としての想いである。 ・遅刻の報告があったが、遅刻は誰かの時間を奪っているという認識を持たせないといけない。遅刻が多いという課題があるなら、指導方法の改善も含めて検討を。 ・薬物乱用防止の講演会を企画中とのことだが、飲酒や喫煙についての話もぜひ盛り込んでほしい。身近にあるものだけれど影響が大きいことを生徒たちに知らせてほしい。 ・今度桜和高校で実施予定の「万博 STEAM 教育ワークショップ」における中高連携事業についての詳細を教えてほしい。 ・ボランティアで文化祭の受付をしてもらったが、来年はもっと人数を増やしていきたい。「教育ボランティア」にて部活動指導で携わってくれた高校生が、中学生の演奏などを見てもらうといったつながりは双方にとっても大切な経験となる。 ・三菱みらい財団に選ばれたのは本当にすごいことである。 ・これから社会に出た時に考えることが多くなるので、人権的な視点や、生きる術などたくさん生徒に話をしてほしい。 【第3回】(2月 19 日) ・「探究 EXPO」について、どんな高校が参加したのか。 ・地域との交流や学びを外に広げる取り組みをたくさん行っており、いろんなことをやっているなど感心する。ぜひこういった交流は続けていってほしい。 ・遅刻指導に関して、何分遅れたら遅刻になるのか。また繰り返し遅刻をする生徒もいると思うが、各学年でだいたい年名くらいが遅刻をしているのか。 ・「三観点での評価」とはどのような評価で、どのように評価しているのか。 ・ビブリオバトルという取り組みは非常によい取り組みだと思う。どんな本で行っているのか。制限とかはあるのか。 ・姉妹校だけでなく1日だけの国際交流も行っているとのことだが、1日国際交流の意義は何か。 ・不登校の生徒に対してどのようなアプローチを行っているのか。また、SC の相談体制はどうなっているのか。 ・AED 講習に関してどのような生徒が対象となっているのか。 ・制服の着崩しが残念であるという意見があるが、どれくらいいるのか。 ・中学生をワークショップに参加させてもらい、中学生にとっても教員にとっても非常に良い経験となった。中高の地域交流ができてよかった。何より高校生が楽しんでやっているのが印象的で、取り組まれている「好き」をベースにした教材づくりは、生徒へ影響を与えるものだと感じた。 ・保護者の学校教育自己診断項目「HP をよく見る」が 60%台であり、教頭からの報告では情報の周知が課題であるとのことだったが、同様に「教育情報について可視化されているという」項目では 90%以上の肯定的回答があることから、保護者にはしっかりと情報は伝わっており、足りないとは言えないのではないかと。質問項目の見直しも検討したらどうか。 ・薬物乱用の講習が開かれなかったとのことなので、ぜひ次年度は開いてほしい。 ・まず、地域にグラウンドを開放してくれて本当に感謝している。子どもたちが広いグラウンドで、のびのび活動ができてるのが本当にありがたい。 ・扇町商業、扇町総合と学校の変遷を見てきたが、桜和高校もこれからどんな学校になっていくのかを楽しみにみている。
--	--

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標 [R5年度値]	自己評価
1 心身の健康と安全を保持増進する力の育成	(1) 心身の健康と安全確保について生徒が説明したり働きかけたりすることができるようになるための指導の充実	(1) ・衛生管理や救命救急に関する指導のため、校内において救命講習用人形やAEDトレーナーを常備し、教員研修及び教育課程外での生徒指導の機会を設けて、生徒に知識とスキルを身につけさせる。 ・薬物乱用防止教室、交通安全教育等に応い視点で取組み、生徒の知識とスキルを高めるため、外部講師を招く講演会を計画的に実施する。 ・18歳成人を踏まえ、消費者・主権者教育の推進を図るため、外部講師を招く講演会を計画的に実施する。 ・スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとの連携により、課題を抱える生徒への理解を深め、対応の方法等知識を高めるための教員研修を実施する。	(1) ・生徒ならびに教員対象の救命救急講習会を実施する。 [R4:2回 R5:教員・生徒ともに1回ずつ実施] ・外部機関等から講師を招き、講演会を年1回以上実施する。 [R4:1回 R5:1回実施] ・主権者教育推進のために外部機関等から講師を招き講演会を年1回以上開催する。 [R4:1回 R5:0回] ・スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーと連携し、諸課題への理解を深めるための教職員研修会を年1回以上実施する。 [R4:1回 R5:1回実施]	・教員・生徒とも1回ずつ実施(7月)[○] ・人権講演会「命の大切さを考える」実施(11月)、西天満警察「交通安全講習」実施(7月)[◎] 大阪弁護士会より出前授業実施(10月)[○] ・SCと教職員による教育コンサルを年3回(各学期ごとに)実施[◎]※3回目は3月に実施予定。
	(2) 高校生活における課題に対する取組の充実	(2) 中退・不登校・進路選択の不安・高校生活に関する諸課題について、スクールカウンセラーと連携しながら、定例の検討会を開催する。	(2) ・生徒向け学校教育自己診断における「悩みや相談に親身になってくれる先生が多い。」の肯定的回答率80%以上を維持する。(R4:81% R5:86%)	・80%[○]
2 解決につなげる力の育成	(1) 探究的な学びによる科学的手法の習得と学ぶ意欲を高める学習	(1) 学校設定科目「教育探究」等における学びを通して、他者とのかわりについての考察を深める科学的手法を教授し、教員自らも日々指導方法について自己研鑽に励み、資質・能力の向上に努める。	(1) ・生徒向け学校教育自己診断における「学校では、生活規律や学習規律などの基本的習慣の確立に力を入れている。」の肯定的回答率80%以上を維持する。 [生徒 R4 86% R5 86%]	・84%[○]
	(2) 高大連携行事の充実によるキャリア教育の推進	(2) 将来の目標に向かって主体的・積極的に行動する力を育成するキャリア教育推進のため、積極的に大学との連携を行い、大学訪問等含めて交流を深める。	(2) ・探究学習の成果発表の場として、保護者や他校生徒など外部を招いた発表会を実施する。 ・大学や外部機関との連携授業を年10回以上実施する。[R5 10回]	・探究EXPO2024in大阪成蹊大学を開催 ・12回[◎]
	(3) 学校図書館の活用ならびに教育環境の整備	(3) 学校図書館等の情報資産を活用し、視野を広げ自己の生き方を考察させ、学習意欲の向上を図るため、学校図書館の教育環境を整備する。	(3) ・ビブリオバトルに取り組み、本に対する興味関心を引き出すよう取り組む。 [R5 1年教育探究にて実施] ・生徒向け学校教育自己診断における「教室・特別教室・運動場などは、授業や生活がしやすいように整備されている。」の肯定的回答率90%以上を維持する。 (生徒 R4 90% R5 90%)	・1年生、3年生においてビブリオバトル大会を実施。 ・85%[○]
	(4) 北区を中心とした近隣校との異校種間連携の充実	(4) 「教育ボランティア」にて積極的に異校種間連携ならびに教育関連施設において体験実習を行う。また、令和6年度「教育体験」実施校との連携を進める。	(4) ・生徒向け学校教育自己診断において「授業や部活動、学校行事などを通して、ほかの学校や幼稚園・保育園などと交流することがある。」の肯定的回答率を80%以上にする。 [生徒 R4 55% R5 77%] ・支援学校との交流を年に1回以上実施する。	・74%[△] ・住之江支援学校教員による「教育入門」での講義2回実施(7月、11月)[◎]
	(5) 国際的視野を養い、多文化理解を図る力の育成	(5) 姉妹校からの留学生との積極的な交流や、大学や外部機関との連携を進める。	(5) ・大学等から外部講師を年に2回以上招聘し、多文化理解の充実を図る取り組みを行う。 ・英検2級の新規取得者30名。 [R5 24名]	・大阪府教育センターとの連携により講義実施。英語セミナーにて大学より講師を招聘し交流。[◎] ・1級:1名 準1級:3名 2級:26名 準2級:38名(月現在)の取得[○]

府立桜和高等学校

3 人権尊重・相互理解に努める力の育成	(1) 教科横断的な視点に基づくコミュニケーション能力、情報活用能力等の育成	(1) 教科横断的な視点に基づくコミュニケーション能力等の育成を図るため、積極的に授業公開を進め、情報交換を活発に行う。	(1) ・STEAM的手法を用いて、多角的・教科横断的な視点に基づく授業を実施する。 (R5 教育探究Ⅱにて実施) ・生徒向け学校教育自己診断において「授業で自分の考えをまとめたり、発表する機会がある。」の肯定的回答率90%以上を維持する。 (生徒 R4 95% R5 98%)	・万博steamワークショップを近隣小中学校を招いて実施[◎] ・95%[◎]
	(2) 他者とよりよくつながる態度を養う	(2) 人や社会とのつながりについて考察を深めさせ、自他の存在の価値に気づかせるため、体験活動や地域とかかわる機会を全教職員で探し設定する。	(2) ・生徒向け学校教育自己診断における「授業や部活動などで、保護者や地域の人々とかかわる機会がある。」の肯定的回答率を70%以上にする。 [生徒 R4 62% R5 63%] ・生徒向け学校教育自己診断における「先生は、いじめについて私たちが困っていることがあれば真剣に對してくれる」の肯定的回答率80%以上を維持する。 [生徒 R4 87% R5 90%]	・74.1%[○] ・88.1%[◎]
	(3) よりよく社会に参画する態度を養う	(3) 学校行事に対して、生徒が主体的に関与し、部活動に意欲をもって取り組む環境づくりを推進するため、生徒会を中心に学校行事を活性化させ、外部との積極的な交流を図る。	(3) ・生徒向け学校教育自己診断における「学習と部活動の両立に向けて取り組んでいる。」の肯定的回答率80%以上を維持する。[R5 75%] ・部活動外部指導員の積極的な活用や部活動大阪モデルを通して、勤務時間の是正を積極的に図り、教員一人あたりの時間外在校等時間を月平均45時間未満にする。 ・学期に一度のクラブ表彰の実施や大会以外の発表の場を年に1度は必ず設け、生徒・顧問のモチベーションの維持に寄与する。	・85%[○] ・すべての月において時間外在校等時間について、月平均45時間未満を達成することができた。また、部活動大阪モデルを活用している部活動6つにおいてもいずれも勤務時間の軽減につながった[◎] ・各学期の始まりと終わりに表彰式を実施。探究EXPOでの発表やや地域のイベントに参加。[◎]

府立桜和高等学校

4 「チーム桜和高校」を支える教員力の向上	(1) 生徒・教職員の健康管理体制の充実	(1) 学校保健委員会、安全衛生委員会の活性化を図り、生徒・教職員の自他ともに健康への配慮ができる態度を育てる。	(1) ・教職員の年間1人当たりの平均時間外在校時間を400時間以内にすることをめざす。[R4 459時間 R5 322時間](4～1月)	・297時間(4月～1月)[◎]
	(2) 大阪教育大学と連携して教育文理学科の特色を最大限発揮するための実践研究の推進	(2) 「教育探究」の授業実践の結果から、よりよい授業に向けた方法を考察する教職員研修を外部の支援を得て実施するとともに、令和6年度よりはじまる「教育体験」等の教育計画を作成する。	(2) ・連携大学等から教授を招き、教育実践における最新の研究に関連する講義を年3回実施する。[R5 3回] ・教職員向け学校教育自己診断の「生徒の実態をふまえ、参加体験型の学習を行うなど、指導方法の工夫・改善を行っている。」の肯定的回答率90%以上を維持する。 [教職員 R4 100%、R5 100%]	・各コースにおける特別講座を中心に6回実施[◎] ・100%[◎]
	(3) ICTの活用を充実させる環境づくり	(3) 教職員ICT委員会、生徒ICT委員会を常設し、通信環境の整備と1人1台端末の効果的な使用方法の共有を図る。	(3) ・ICT委員会(生徒・教職員)によるICT活用研修を年1回以上実施する。 ・教職員向け学校教育自己診断における「コンピューター等のICT機器が、授業などで活用されている。」の肯定的回答率90%以上を維持する。 (教職員 R4 100%、R5 100%)	・2回実施[○] ・98%[◎]
	(4) ICT等を活用した校務の効率化	(4) 教育センターの研修等の活用、教材等のコンテンツや進路情報の共有を進め、業務の効率化を図るための情報環境を整備する。	(4) 教職員向け学校教育自己診断における「この学校では、府教育センター等が主催する研修に計画的に参加する体制が整っている。」の肯定的回答率80%以上を維持する。 [教職員 R4 87%、R5 80%]	・84%[◎]教育センター主催の研修への参加は勿論のこと、校内での教員による伝達講習や、技能講習などを積極的に行った。
	(5) 広報活動の充実、保護者や地域等との連携を推進する	(5) 学校説明会や学校HP等を通じて、中学生やその保護者、地域に積極的に創意工夫を生かした魅力発信を行う。	(5) ・学校説明会を年5回以上、学校HPの更新回数を300回以上とする。 ・中学校への出前授業を10回以上実施し、中学校におけるキャリア教育へ積極的に貢献する。 (R5 14回) ・保護者向け学校教育自己診断における「学校のホームページをよく見る」の肯定的回答率70%以上を維持する。 (保護者 R5 61%) ・保護者参観weekを年1回設け、保護者向け学校教育自己診断における「学校の授業参観や学校行事に参加したことがある」の肯定的回答率80%以上を維持する。(保護者 R5 82%)	・260件(1月現在)の記事更新[◎] ・出前授業28件、外部の学校説明会15件参加、学校訪問受け入れ7件 [◎] ・62%[△] ・参観日には初めての試みとして「探究」イベントを実施した。 ・84%[○]